

京都大学 – DAADパートナーシッププログラム公募説明会・交流会

～SDGs達成に資する日独の国際共同研究ネットワークを目指して～

趣旨

京都大学はドイツ学術交流会(DAAD)と若手研究者の研究交流を促進するマッチングファンドプログラム「DAAD – Kyoto University Partnership Program」を設立しました。本プログラムは、本学とドイツの高等教育・研究機関に所属する志の高い若手研究者 (Early Career Researcher: ECR) の短期海外派遣を通じて、日独を中心とする研究グループ間で「国連の持続可能な開発目標 (SDGs)」達成に資するような未来につながる国際共同研究ネットワークを構築することを目的としております。

本交流会では、学術研究支援室(プログラム事務局)によるプログラム公募の説明や本パートナーシッププログラムを活用してドイツの大学研究機関との国際共同研究ネットワークの強化を開始した若手研究者3名による体験談や事例紹介を行い、若手研究者やプログラム事務局との個別の相談会を行います。(1) 京都大学において最先端の科学技術研究に取り組んでいる若手研究者との今後の協力関係の構築に向けた人脈形成や、(2) ドイツを中心に欧州地域における研究動向の情報収集やドイツの研究機関・組織等とのネットワーキングの足掛かり構築に興味がある方は是非ご参加ください。学術研究支援室、京都大学欧州拠点(ハイデルベルグオフィス)からも、研究者マッチングに関する相談や様々な研究支援のツールをご紹介します。

参加申し込み

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/159>

交流会・説明会プログラム概要

日時：2019年7月2日(火) 15:30～17:30 (開場 15:00)

場所：学術研究支援棟 1階セミナー室1

15:30～15:45 プログラム公募事業説明

15:45～16:20 プログラム利用者による経験談・活用事例の紹介

・ 亀井謙一郎 (iCeMsS 准教授)

・ ヤン・ディーク・シュメッカー (工学研究科都市社会工学専攻 准教授)

・ 寺川剛 (理学研究科 助教)

16:20～17:30 個別相談会(ネットワーキング交流会)

参加メリット (参加費無料)

- ① 京都大学で先端研究に取り組む若手研究者と個別相談・人脈形成ができます！
- ② ドイツを中心に欧州地域の研究機関とのネットワーキングの足掛かり作りを相談できます！
- ③ 京都大学学術研究支援室・欧州拠点(ドイツ)と研究者マッチングの相談ができます！



第1回交流会の様子(6月20日実施)

京都大学学術研究支援室【間: AI DA】プログラム担当から今後も国際共同研究を志向する若手研究者との交流会・セミナーをご案内させていただきます。2019年12月のクリスマス時期に京都でドイツ交流の成果報告会・交流会を予定しております。

京都大学 – DAADパートナーシッププログラム公募説明会・交流会

【説明者の情報・プログラム活用体験談の概要】

亀井謙一郎 (iCeMs 准教授)



高度な生体外ヒトモデル「Body on a Chip」の日独共同開発を目指して

私は現在、マイクロ流体デバイスと幹細胞を融合して生体外ヒトモデル「Body on a Chip」の研究・開発を行っている。「Body on a Chip」をより高機能化するためには、Chip内での細胞挙動をリアルタイムに観察・評価できるシステムの構築が必要である。一方、ドイツではカールスルーエ工科大学の研究者らがセンサ技術に関する優れた研究・開発を行っており、共同研究を始めるきっかけを探していた。また、ドイツ側研究者との新しいネットワークを開拓するためにAIDAを活用！

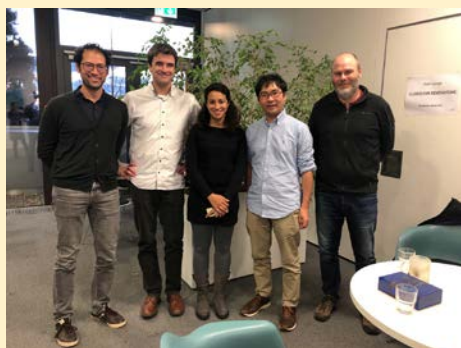
ヤン・ディーク・シュメッカー
(工学研究科都市社会工学専攻 准教授)



ドイツにおける交通社会の専門家とのネットワークの再構築を目指して

私は、以前は交通ネットワークのモデリングフローに関する理論研究を行っていたが、近年は公共交通機関の電子発券（電子カードデータ）やETCデータ、携帯電話のデータなどの大規模なデータセットを使用した解析に取り組んでいる。現在の目標は、旅行者の行動をより理解し、ネットワークフローモデル構築にフィードバックすることである。ドイツには近年このような方向性に焦点を当てた研究者が見られることから、ネットワーク構築のためにAIDAプログラムを活用！

寺川剛 (理学研究科 助教)



ドイツのコンデンシン精製手法の導入を目指して

先行研究において私は、コンデンシンタンパク質がATPの加水分解エネルギーを利用してDNA上を一方向に歩進する分子モーターであることを明らかにした。しかし、その分子機構はわかっていない。そこで、欧州分子生物学研究所 (EMBL) のChristian Haering研究室との国際研究ネットワークを形成して、様々な変異を導入したコンデンシンを精製して、コンデンシンがDNA上を歩進するメカニズムを明らかにすることを計画し、AIDAのプログラムを活用！

<https://www.oc.kyoto-u.ac.jp/exchange/kyoto-daad-reports/>

京都大学 学術研究支援室(KURA)

京都大学には研究者を支えるプロフェッショナルチーム。多種多様なスキルや経験、専門知識を持った約40人のリサーチ・アドミニストレーター(URA)が所属する日本最大級の組織。

京都大学 欧州拠点

京都大学は全学海外拠点のひとつとして、ドイツ・ハイデルベルクに欧州拠点を設置。欧州拠点は、本学の欧州地域における研究教育活動の支援、本学教職員・学生の国際化の推進および広報・社会連携・ネットワークの形成を推を目的とし、KURAのURAが常駐している。

問合せ先

京都大学学術研究支援室 【間: AI DA】プログラム担当 (園部、鈴木、桑田、仲野)

Tel: 075-753-5179 E-mail: aida@kura.kyoto-u.ac.jp

URL: <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>